

## 3 講義資料・研修資料等

### 教育コミュニティづくり推進事業

#### ● 令和5年度「教育コミュニティづくり」実践交流会

##### 1. 本校での地域コミュニティ事業

- ① <学校支援活動>ふれあい環境美化活動（年10回）  
実施日：毎月第一木曜日開催（夏・冬休み期間を除く）  
活動内容：地域ボランティアと子どもたちの協働作業  
（中庭の花壇整備、花苗植え、収穫、清掃活動）
- ② <放課後の居場所づくり活動>パソコンクラブ（年11回）  
実施日：毎月第三土曜日開催（8月を除く）  
活動内容：PCやタブレット端末の利活用方法の指導、各種ICT機器体験

##### 2. 本校の課題と工夫点

- ① ふれあい環境美化活動
  - ・ 月1開催であり、1回きりのイベント的な印象がある。
  - ・ そのため、企画されたものに参加するという意識がみられる。
  - ・ 受身的な活動のような印象→ 工夫点：普段の授業の中に地域の方々が参加、協働できるように継続した授業を実施することにより学びの連続性、普段と変わらない児童生徒の様子を継続した関わりを持てるため、積極的なコミュニケーションの向上が期待できる。
- ② パソコンクラブ
  - ・ 顧問は2人。参加者は15人以上。
  - ・ 指導教員を固定せず、月毎の参加可能教員を募集し、人数調整のうえ実施。→ 工夫点：支援学校、支援教育に興味のある学生をボランティアとして登用し、教員の負担を軽減する。

##### 3. 人材確保・育成

- ① ふれあい環境美化活動
  - ・ 社会福祉協議会（中津地域振興会）へ協力依頼
  - ・ 中津地域振興会会長を学校運営協議委員として委嘱
- ② ボランティア講座や本校教員による大学での講義
  - ・ 教職をめざす学生、支援教育に興味がある学生に向けて、「ボランティア講座」を開催
  - ・ 支援教育や支援学校の実際を早い段階に見る・聞く・知る→ボランティア、学習支援員→プレ先生
  - ・ 大学での授業等（障がいスポーツ、障がいのある子どもたちへの支援・指導、教育実習等）を行い、本校に興味関心を持たせる



## 令和5年度「教育コミュニティづくり」実践交流会



↑今年度の活動の様子はコチラからご覧ください



大阪府立中津支援学校  
首席 入福 潤 光

## 1. 地域コミュニティ推進事業内容



(学校支援活動)  
ふれあい環境美化活動

- 実施日  
毎月第一・三木曜日開催（夏・冬休み期間を除く）
- 活動内容  
地域ボランティアと子どもたちの協働作業（中庭の花壇整備、花苗植え、収穫、清掃活動）



(放課後の居場所づくり活動)  
パソコンクラブ

- 実施日  
毎月第三土曜日開催（8月を除く）
- 活動内容  
PCやタブレット端末の活用方法の指導、各種ICT機器体験

## 2. 課題

学びの  
連続性

他者との  
かわり

取組み内  
容の共有

### ①お楽しみ感、イベント感

- 推進担当のみで計画することで、「行事に参加する」意識が内面的に存在！？
- 子どもたちの普段の授業計画に沿った教育活動を推進していきたい。普段のまま活動してほしい

### ②コミュニケーション力の向上

- 一回限りの活動になりがちだった
- 地域とのつながりを大事にしたい
- 地域の方々に学校の様子を知ってほしい

### ③人材育成（パソコンクラブ）

- 顧問は2人、参加児童生徒は15人以上、人手が足りない。指導教員を固定せず、月毎の参加可能教員を募集し、人数調整のうえ実施
- 支援教育に興味のある学生を積極的にボランティア登用する



## 3. 解決策



○推進担当と授業担当で計画  
普段の教科・科目等の年間計画内に位置付ける

○授業の継続性  
あくまでも授業計画の中の一つとして、他者との協働も意識した、継続ある学習を計画

○学生ボランティア募集  
教職をめざす学生、支援教育に興味がある学生に向けて、「ボランティア講座」を開催  
支援教育や支援学校の実際を見る・聞く・知る→ボランティア、学習支援員→ブレ先生  
大学での授業等（障がいスポーツ、支援を必要とする子どもたちへの支援・指導、教育実習事前指導等）を行い、本校に興味関心を持たせる

## 4. 活動風景

### ○生活「掃除用具の使い方を勉強しよう」

- 清掃用具の種類や名前、用途を学び、実際に練習
- 学習の成果をグループワークのテストを使って（地域の方と相談しながら答えをまとめました）
- 「上手になったね」と言われると嬉しそうでした（2月には学校周辺の掃除を行いました）



### ○特別活動（児童生徒会活動） 「学校のまわりをきれいにしよう」

- 毎年実施している（コロナ期間を除く）。本校では地域コミュニティ事業を始めた初年度より続けてきた活動
- 対象は学部全体
- 授業等で協働活動をしているため、児童生徒も地域の方々と緊張することなく一緒に活動できた



### ○家庭「野菜の苗を植えよう」

- 苗植えから収穫までを計画
- 収穫後に残った土を使ってリースづくり
- 植え方を教えてもらい、上手に植えることができました
- そのほか、トマトの芽かきや支柱立てをしました。地域の方と一緒に芽や葉を覗いている様子が印象的でした



### ○家庭「クリスマスリース作り」

- どのように飾りをつけるか相談しながら
- 自分からコミュニケーションをとる生徒が増えてきました（地域の方々と顔見知りになりました）
- 作ったリースを地域の会館に飾ってもらいました



○パソコンクラブ

- 一人一台端末を使って
- 検索方法やアプリ等の利活用について勉強
- 撮った写真を友だちや教員と一緒に見る、写真や動画の管理（削除方法）などなど
- 様々なスイッチ（入力補助装置）や支援ソフトを利用してゲームや運動



5. 人材育成（学生ボランティア）



学校について広く情報発信!!

- 大阪府の支援（のかわりについて）
- 車いす体験（車いすの操作、実際に車いすに乗車し、児童生徒が受ける印象を体験する等々）
- ICT支援機器展



出前授業（於：大和大学）

講義「支援学校での教育実習について」「障がいスポーツについて」「地域支援設備事業、児童生徒のアセスメントと支援方法」について

4. 今年度のまとめ

①お楽しみ感、イベント感

- 年間計画の中で行うことにより、より協働活動の拠点を取り入れた授業を計画することができた
- 地域の力を活用し、より深い学びへつなげていきたい
- 授業場面の中で一緒に活動できることで、緊張することなく普段通りに活動することができた



②コミュニケーション力の向上

- 年間を通して一緒に活動する機会が増え、積極的に他者と関わる場面が増えた
- 地域の方々に右曹段の子どもの様子、学習内容等、中津支援学校を知っていただく機会となった

③人材育成（パソコンクラブ）

- ボランティア講座修了生 40人以上（3年間）
- 今年度のボランティア参加者 2名（3年間4名）
- 学習支援員として今年度 4人（大学生）



**第3回ボランティア講座**

2023年9月9日  
大阪府立中津支援学校

- ✓ 水分摂取等は適宜OK
- ✓ 暑さが続きます。体調に気をつけてみましょう



中津「お呼まの像」

**本日のながれ**

学校長あいさつ

1. 校内見学
  2. 講義「支援教育について」「中津支援学校について」
  3. 実技「車いす体験」
  4. 学校ボランティアについて
- そのほか：ミニ展示会

**1. 校内見学**

- 1階：小学部棟、職員室、事務室等
- 2階：中学部棟、保健室、特別教室（美術室、理科室、音楽室）
- 3階：高等部棟、多目的ホール、特別教室（家庭科室）
- 屋上：ブール

**2. 大阪の支援教育について**

『ともに学び、ともに育つ』



「多様性」「地域性」を大切に

**2. 大阪の支援教育について**

支援学校：ゆるやかに増加推移  
支援学級：比べると急激に増加



資料：「令和4年度 大阪府支援教育計画」 P2-4 「1. 支援教育の現状」、P20-22「1. 支援教育の現状」

**「ともに学び、ともに育つ」**

教育環境整備  
まなびの場の充実

- 自立支援推進校・共生推進校
- 社会的自立・就労支援
- 身体的ケア連携体制整備
- 教員の専門向上
- 地域支援整備事業

※あくまでも大阪府が推進している取組みの一部です。

参照：P1～「令和4年度 大阪の支援教育」

**「ともに学び、ともに育つ」**

教育環境整備  
まなびの場の充実

- 自立支援推進校・共生推進校
- 支援学校設置
- 身体的ケア連携体制整備
- 教員の専門向上
- 地域支援整備事業

参照：P1～「令和4年度 大阪の支援教育」

**「ともに学び、ともに育つ」教育は・・・**



・障がいのある子どもと周りの子どもたちが、真実の中で一人ひとりを尊重し、違いを認め合いながら、自尊感情を高め、互いを大切にする態度を育む



・地域社会の一員として人や社会とつながり、支え合いながら、生き生きと活躍できる共生社会の実現をめざす

引用：大阪府：「ともに学び、ともに育つ」支援教育のさらなる実現のために

## 2. 中津支援学校について

- ① 校種等
- ② 在校児童生徒
- ③ 授業の一場面
- ④ その他いろいろ



### 各教科・科目等



## 3. 実技「車いす体験」

その前に、少しだけ車イス等の説明をしていきます。



みなさんは、学校で使用される車イスって、どんなものがあるか知っていますか？

### 3-1. 車イスと歩行器

#### 車イス



クランドフリッチャー  
(リクライニング機能)



車イス (腰ベルト、踵ベルト、  
胸ベルト、フットレストベルト)

### 3-1. 車イスと歩行器

#### ハギー



ハギー (リクライニング・  
チルト機能)



座位保持  
装置椅子

### 3-1. 車イスと歩行器

#### 歩行器



P.C.W  
(Posture Control Walker)



SRC-W (Spontaneous  
Reaction Control Walker)

### 3-1. 車イスと歩行器

#### 車イス (座位保持装置、歩行器等含む)

主に、肢体不自由支援学校で使用される車イス等は、**基本**、**個人仕様**で製作されている。

### 3-1. 車イスと歩行器

学校で使用される車イスは、基本的に個人仕様で製作されている。

- 子どもたちが使用している車イスを「よく観察」
- その扱い（操作、注意点等）については、「必ず質問」

### 3-2. 実技にあたって

- ・守ることに「操作方法」「注意点」
- ・気を付けることに「バレット」「ブレーキ」「身体の状態」
- ・大切にすることに「安心・安全」「不安を与えない」

### 3-3. 実技「車いす体験」

- ①車いすを おしてみよう
- ②児童生徒の好きな場所
- ③意外と気づかない道いろいろ



## 4. 学校ボランティアについて

本校でのボランティア等

- ・学習支援… サークル活動、社会人支援員
- ・部活動の支援… バンコンサークル、生徒会活動
- ・ふれあい環境美化…地域コミュニティ推進事業、社会人支援員

### サークル活動

～社会人支援員～



### 環境美化

～地域コミュニティ・社会人支援員～



## 4-1. 学校ボランティアについて



## 4-1. 学校ボランティアについて

②本校でのボランティア等

- ・学習支援： サークル活動、社会人支援員
- ・部活動の支援： バンコンサークル、生徒会活動
- ・ふれあい環境美化：地域コミュニティ推進事業、社会人支援員

手振っていたおけるが、  
絶賛専業主中



## 地域支援だより



第 1 号  
 中津支援学校  
 地域支援委員会  
 交流校 ver

### ○リーディングスタッフとは？

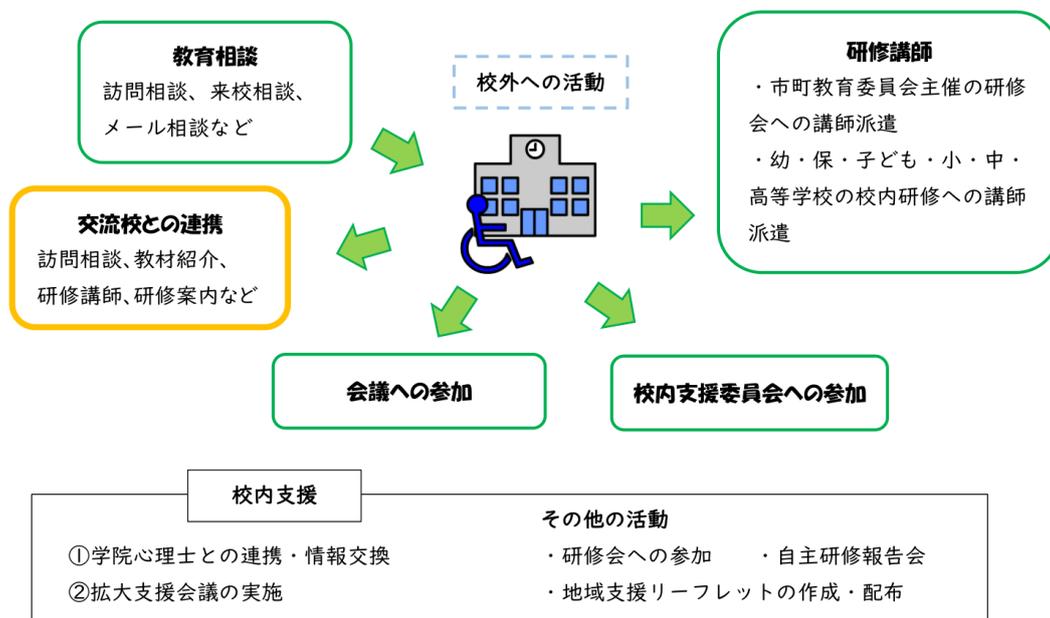


平成 19 年文部科学省通知「特別支援教育の推進のための学校教育法等の一部改正について」を受けて、大阪府教育委員会事務局（現教育庁）教育振興室支援教育課より「支援教育地域支援整備事業」が制定され、センター的機能を担うコーディネーターとして「**LS（リーディングスタッフ）**」が各校に位置付けられました。  
 ※リーディングスタッフは、府内の支援教育推進の中核を担う者として支援学校で2名任命されます。

平成 15 年の「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」において、特別支援教育コーディネーターとは、学内、または福祉・医療等の関係機関との連絡調整役として、あるいは保護者に対する学校の窓口として、校内の関係者や関係機関との連携強化を図ると明記されています。

支援教育コーディネーターとリーディングスタッフの活動は同じ部分も多くありますが、支援教育コーディネーターは各学校内における支援教育の推進を担い、リーディングスタッフはそれらに加え、地域における支援活動も含まれてきます。

### ○本校のリーディングスタッフの活動





## 応用行動分析（ABA）を用いた行動理解

○こんな子どもはいませんか？



○これらの行動はどのようにして起こるのか？

**<応用行動分析>** 行動の要因を目に見えない「ところ」ではなく「行動」に着目し、行動の前後を操作することで行動を制御する方法。



### Point 1 ABC 分析

行動を、『きっかけ (A)』『行動 (B)』『結果 (C)』の一連の流れで考える分析方法のことです。



例) 「授業中に立ち歩く」という行動を A と B と C に分けて分析すると…



このように、あるきっかけのもとで、行動を起こし、結果が得られます。きっかけと結果は、行動によって因果関係を結んでいるということになります。

「ABC 分析」では、行動の原因を、発達や認知、特性といった個人の内面におくのではなく、環境要因との相互関係から考えていきます。



反対に、良い行動ができているときはどんなときでしょうか…

行動問題「授業中に立ち歩く」



→ 良い行動「座って授業を受ける」

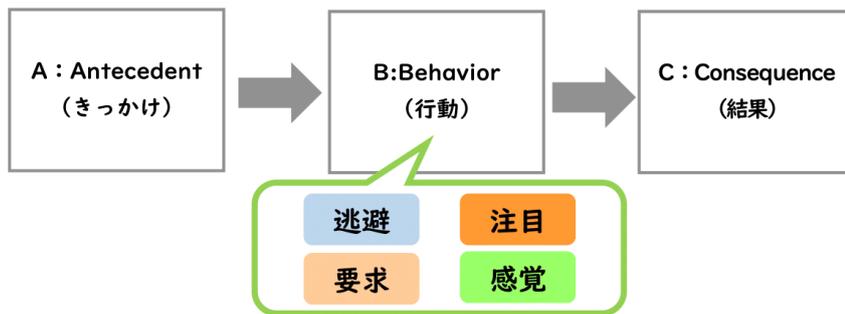


良い行動ができている時を分析することで支援のヒントが見つかるね!



## Point 2 機能分析

行動が生起する理由やその目的のことを「機能」といいます。行動には4つの機能があります。



「逃避」 → 何かから逃れたくて起こす行動

「注目」 → 自分を見てほしくて起こす行動

「要求」 → 何かを手に入れたくて起こす行動

「感覚」 → その感覚が楽しくて起こす行動

子どもたちが起こす行動には必ず何らの意味や理由があります。子どもの視点に立って行動を見ていくと、「行動の機能」が見えてきます。

### ～行動理解の流れ～

【ステップ1】 「ABC分析」で行動を整理する。  
行動の前後に注目する。

【ステップ2】 行動の機能を考える。  
「逃避」「注目」「要求」「感覚」

記録を  
取りましょう!



次号では、支援の方法について考えていきましょう!



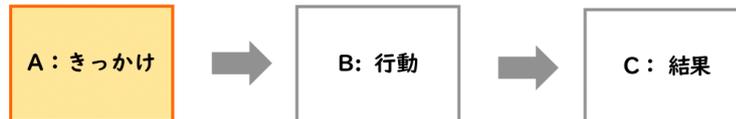
## 応用行動分析（ABA）を用いた行動支援

<応用行動分析> 行動の要因を目に見えない「ところ」ではなく「行動」に着目し、**行動の前後を操作する**ことで行動を制御する方法。

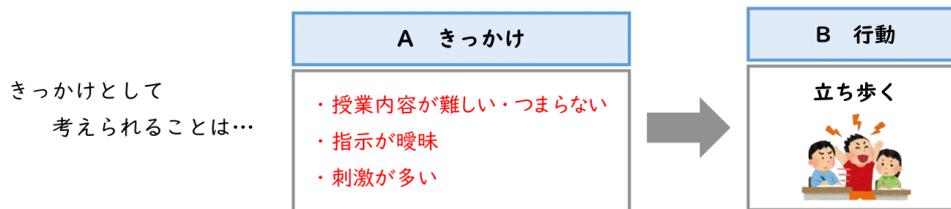


### その1 行動の前を操作する

行動の前というのはABC分析で見ると、『A きっかけ』の部分に当たります。



★例えば… 授業中に立ち歩いてしまう児童の場合



「A きっかけ」に着目した支援を考えてみましょう！



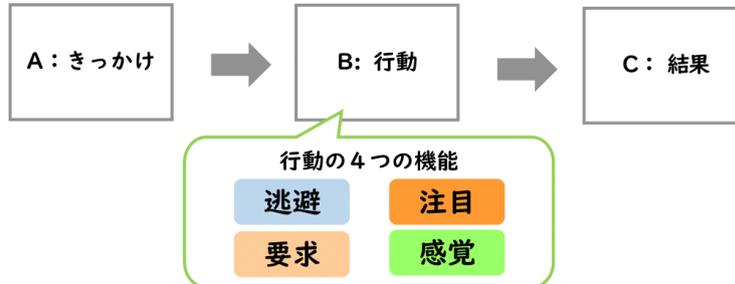
きっかけは様々な要因が考えられると思います。児童生徒にとって1番大きな要因と考えられるものから支援していきましょう。

環境やきっかけを工夫すれば、問題行動は減るんだね！





## その2 行動の後は操作する

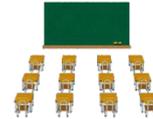


「4つの機能」に着目した支援を考えてみましょう！

### 逃避

#### ⇒ 環境調整

- ・課題や活動の変更調整  
(難易度の変更、量、参加時間)
- ・教室環境の変更調整  
(掲示物、音、人の多さ、温度、湿度、席の場所)



### 注目

#### ⇒ 消去 (反応しない)

消去 ≠ 無視

- ・無視ではなく、**反応しない**。
- ・行動の前後に変化を起こさない。

適切な行動ができた時は、  
注目し、強く褒める！



### 要求

#### ⇒ スキルの獲得

- ・適切な要求の方法を教える。
- ★交渉することを教える
- 例) 「手伝ってください」「教えてください」「休憩したい」と言う。



### 感覚

#### ⇒ 環境調整

- ・やってもよい時間や場所を決める。
- ・あらかじめ感覚ニーズを満たしておく。

#### ⇒ スキルの獲得

- ・代替手段を教える。  
(スクイーズボール、バランスディスクなど)

4つの機能に基づいて支援することで、  
行動の後の「C 結果」を変えることができます。

行動の機能を適切に  
把握することが大切！



## 支援の Point “強化”の原理

強化の原理とは…

★「B 行動」を起こし、「C 結果」によいことが起こると、**行動は増える!**

「B 行動」と「C 結果」にはある一定の法則があり、これを「**強化の原理**」と言う。

「C 結果」によって行動が継続して起こっている場合は、その行動は強化されたことになります。

★例えば… スーパーでお菓子を買ってもらえず、泣きわめいている子ども



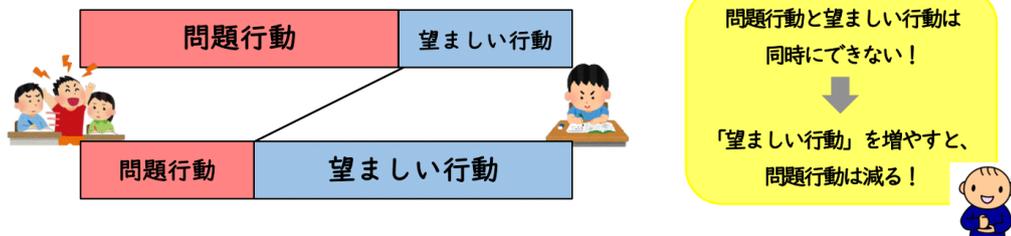
この場合、子どもは泣きわめくとお菓子を買ってもらえると学習し、その行動は続きます。「泣きわめく」という**問題行動**を強化させるのではなく、「**望ましい行動**」を強化させることが大切です。



スーパーでの例をもとに考えてみましょう。

B の行動で約束を守ると、C の結果としてお菓子を買ってもらえたとなると、「約束を守る」という行動は強化されます。**このように望ましい行動を強化し、望ましくない行動は消去しましょう。**

## 支援の Point 望ましい行動を増やす支援を!

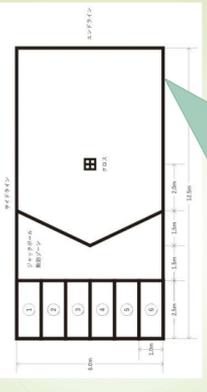


### ～行動支援の流れ～

- 【ステップ1】 行動の前を操作する。  
ABC分析の「A きっかけ」を工夫する!
- 【ステップ2】 行動の後を操作する。  
「逃避」「注目」「要求」「感覚」の4つの機能に対する支援を行う!
- 【ステップ3】 支援方法を振り返りましょう!  
○効果的→続ける、支援を徐々に減らす、注目する行動をステップアップ  
×逆効果→支援の方法を見直す、行動の機能を考え直す、注目する行動を見直す

参考文献：大久保賢一「3ステップで行動問題を解決するハンドブック」、  
杉山尚子「行動分析学入門」、P.A.アルバート「はじめての応用行動分析」

## (1) ボッチャについて

<p><b>ボッチャ</b> ～パラスポーツに挑戦しよう～</p> 	<p><b>ボッチャについて</b> About Boccia</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 投げることができるならば、ランブ（勾配具）を使う</li> </ul> <p>障がいによりボールを投げる事ができなくても、ランブを思い通りに動かしてランブオフホーラーに投入れることができれば参加できます。</p> 	<p><b>ボッチャで使用する用具</b></p>  <p>ランブ 投げできない選手が使用する専用の用具。ボールを配して投球。(BC3クラス)</p>  <p>リリーサー ボールをランブから転がすため、主に頭部に装着します。</p>
<p><b>ボッチャとは</b> What is Boccia</p> <p>※日本ボッチャ協会(社)専用 JBOA</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ボッチャはヨーロッパ生まれの、“パラリンピック”正式種目</li> </ul> <p>ヨーロッパで生まれたボッチャは、重症肢体障害もしくは同程度の四肢運動機能障がい者のために開発されたスポーツで、パラリンピックの正式種目です。</p>	<p><b>ボッチャのクラス</b> Oパラリンピック等の国際大会対象クラス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 障がいの程度により、「BC1」～「BC4」の4つのクラスに分かれて競技を行います。選手自身の投球ができない場合、ランブオフホーラーと共に競技を行なっています。</li> <li>■ 詳細はHPをご覧ください。</li> </ul> <p>日本独自の「オープンクラス」も存在します。</p>	<p><b>ボッチャで使用する用具</b></p>  <p>ハンドボール 専用用具の1つ。重さ・長さ・形状・色はそれぞれ異なる。競技中に使用する際は必ず着用する必要がある。</p>  <p>キャリアー 専用用具の1つ。専用用具として使用可能な材質・大きさ・形状がある。</p>
<p><b>ボッチャについて</b> About Boccia</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 上から投げてでも下から投げてでも、あるいは蹴ってもいい</li> </ul> <p>ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ1個ずつのボールを投げ、蹴りこいて、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。</p> 	<p><b>ボッチャで使用する用具</b></p>  <p>Oボッチャボール・ボールは白・赤・青の3種類！</p>	<p><b>コート</b></p>  <p>コート コートは長さが24m、幅が12mの長方形です。コート内には、長さ1.5m、幅0.5mのランブオフホーラーが設置されています。また、コート内には、長さ1.5m、幅0.5mのキャリアーが設置されています。</p> <p>※おおよそバドミントンコート程度の大きさです。</p>

## ボッチャの試合の流れ Flow of a Boccia match



**01. 先攻（赤球）がジャックボールを投げて試合スタート**  
まずは先攻のジャックボール（白球）を投じます。ジャックボール（白球）がゴールまで、ジャックボールがゴールに入らないうちに、赤球のゴールはゴールとなり、相手チームがジャックボールを投げる権利を得ます。

## ボッチャの試合の流れ Flow of a Boccia match



**04. 制限時間内に両者6球ずつ投球**  
各クラスは投球するまでの制限時間が定められ、制限時間内に、両者6球ずつ投球を行っていただきます。制限時間を越えてしまえばボールが落ちていても投球できず。

## ボッチャの試合の流れ Flow of a Boccia match



**02. 後攻（青球）が続いて投球**  
後攻が白ボール（青球）を投じます。チーム間、ペア間の場合は投球順番は任意となります。



**03. 得点の計算**  
すべての球を投げるまでジャックボールは相手チームを奪もつかなかったまま（チーム）のボールのまま、負けているチーム（チーム）のボールはジャックボールにない球数が得点となります。

## ボッチャの試合の流れ Flow of a Boccia match



**03. ジャックボール、先攻（赤球）、後攻（青球）の3球が揃ったタイミングで一度計算**  
3種類のボールが揃ったタイミングで一計算を行い、ジャックボールから遠い順順にある方が次に投球を行います。

## 得点の数え方



## ボッチャの見どころ

☆ハイレベルな戦いになると、密着した状態なら、表情が柔らかいボールを放った『3D噴射』。ボールの上にボールを積み重ね、ジャックボールに密着させて得点を狙う。  
☆軌道の穴を通すような正確なコントロールと絶妙な力加減が求められる繊細な球で、先を急ぎ前進と、それを交差する選手の技術と集中力に注目です。



## ボッチャの魅力とまとめ

〇軽るのも面白けれど、やってみたらこれまた面白いのが『ボッチャ』です。ワイワイガヤガヤ楽しくやるのも、競いあって本格的にやるのも、どちらもOK!  
〇ボールを投げれば、広がる、見つける能力がいっぱいあります。子ども、大人も、お年寄りも、障がいのある人も、ない人も、力のある人も、ない人も、運動が得意な人も、苦手な人も... ボッチャはだれでもプレーできることができますユニバーサルなスポーツです。



## 日本代表選手の練習風景をご覧ください。



## (2) GIGAスクール構想と ICT 機器 特別支援教育充実の可能性

<p>大和大学 教育学部 重現障害教育実践 第10回</p> <h3>GIGAスクール構想とICT機器 特別支援教育充実の可能性</h3> <p>大阪府立中津支援学校 情報教育部長 川前 寛</p>	<h3>はじめに</h3> <h4>大阪府立中津支援学校について</h4> <ul style="list-style-type: none"> <li>昭和62年開校。肢体不自由のある児童生徒を対象とした支援学校。</li> <li>隣接する医療型障がい児入所施設「大阪聴覚学院」に入所している児童生徒への教育を実施。</li> <li>在籍者数（令和5年5月） 63名（小学部30名、中学部18名、高等部15名）</li> </ul> 	<h3>本日の内容</h3> <ol style="list-style-type: none"> <li>GIGAスクール構想と特別支援教育</li> <li>子どもたちの学びを支えるICT</li> <li>実践事例『OO × ICT』</li> <li>ICTを日常的に活用していくために</li> <li>機器のデモンストラーションと体験</li> </ol>
<h3>GIGAスクール構想と特別支援教育</h3>	<h3>GIGAスクール構想とは</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「人」(台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備すること、特別な支援を必要とする子どもも含め、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、質実・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現する</li> <li>・これまでの我が国の教育実践と最先端のベストミックスを図ることに より、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す</li> </ul> <p> <span style="background-color: #f8d7da; padding: 2px;">これまでの教育実践の蓄積</span> × <span style="background-color: #f8d7da; padding: 2px;">ICT</span> = <span style="background-color: #f8d7da; padding: 2px;">学習活動の一層の充実 主体的・対話的で深い学びの視点からの 授業改善</span> </p> <p><small>(引用:文部科学省「リーフレット『GIGAスクール構想の実現』」)</small></p>	<h3>特別支援教育におけるICT</h3> <p>ICT機器の活用</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;"><b>『合理的配慮』</b></p> <p><small>(参考:障害者権利条約第2条) (参考:学習指導要領解説各教科編)</small></p>
<h3>肢体不自由児・重度重複障がい児への支援</h3> <p>ICT機器の活用</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;"><b>『表出・表現する力』を育むための支援 『主体的な活動』の幅を広げるための支援</b></p>	<h3>『表出・表現する力』を育むための支援</h3> <p>言語障害を伴っている肢体不自由のある子供に対しては、言語の表出や表現の代替手段等の選択・活用によって、状況に応じたコミュニケーションが円滑にてきよう指導する必要がある。特に、障害の重い子供の場合には、表情や身体の動き等の中に表出の手掛かりを見いだし、コミュニケーションに必要な基礎的な内容の定着を図る指導が必要である。</p> <p><small>(文部科学省 障害のある子供の教育支援の手引より)</small></p> <p style="text-align: right;">➡ <b>AAC (拡大代替コミュニケーション)</b></p>	<h3>『主体的な活動』の幅を広げるための支援</h3> <p>上肢の障害のために、書字動作やコンピュータ等の操作に困難が伴う場合がある。そのためICTやAT(Assistive Technology: 支援技術)などを用いて、入出力装置の開発や活用を進め、子供一人一人の障害の状態等に 応じた適切な補助具や補助的手段を工夫しながら、主体的な学習活動が できるような指導内容を取り上げる必要がある。</p> <p><small>(文部科学省 障害のある子供の教育支援の手引より)</small></p> <p style="text-align: right;">➡ <b>AT (支援技術)</b></p>

<p style="text-align: center;"><b>子どもたちの学びを支えるICT</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>個別『最適化』するために</b></p> <p>「タブレット・アプリがあるだけではうまくいかない・・・」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの障がい、認知発達段階・身体状況を適切に捉える。</li> <li>・子どもをデバイスやアプリに適応させるのではなく、指導のねらいに沿ったデバイスやアプリを選ぶ。</li> <li>・子どもに適した入力機器の選定をし、アクセシビリティ機能の設定をカスタマイズしていく。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>肢体不自由・重度重複障がい児にとってのICT活用の個別『最適化』</b></p> <p>『フィッティング』: 使用者一人ひとりの異なる身体状態に合わせて能動的に操作できるようにする支援の手立て</p> <p>①姿勢の補助 ②補助機器の選定と設置 ③使用する環境調整</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">ICT活用のカギとなる個別『最適化』</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">自分で「できた」という実感が、次の活動への意欲につながる</p>
<p style="text-align: center;"><b>アクセシビリティスイッチの例</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>アクセシビリティスイッチの例</b></p>  <p>ビッグスイッチ(※)   マイクロライト   スイッチ ジェリーピーンスイッチ(※)   スイッチ   スイッチ</p> <p>フレキシブルポイントタッチ   スイッチ スイッチ   スイッチ</p> <p>PPSスイッチ   スイッチ ラッチ&amp;タイマー   スイッチ</p>	<p style="text-align: center;"><b>スイッチインターフェイスの例</b></p>  <p>i+Padタッチャー   Hook+   改造Bluetooth マウス   (フックプラス)   マウス</p>
<p style="text-align: center;"><b>その他の入力支援機器</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視線入力装置 <ul style="list-style-type: none"> <li>・PC画面への視線を感じ、マウスのようにカーソルを操作することが可能。</li> <li>・スクリーンキーボード等のソフトと組み合わせて使用する。</li> </ul> </li> <li>・ユニバーサルアーム <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーブル上や車椅子上で、使いやすい姿勢でタブレットやスイッチを固定し、操作ができる。</li> </ul> </li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>かつては・・・</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコンスイッチインターフェイス</li> <li>・Flashで作成されたソフト教材</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>高額、作成スキル、設置・・・ 教員・児童生徒双方にとって負担が大きい</p> 	<p style="text-align: center;"><b>タブレット端末 (iPad) の登場</b></p> <p>「特別支援教育におけるICT活用のプレクスルー」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりやすいインターフェイス</li> <li>・豊富なアクセシビリティ機能により、ユーザーそれぞれの認知・身体状況に応じた詳細設定が可能</li> <li>・「一人一台端末」として活用するメリット</li> </ul> 

<p style="text-align: center;"><b>実践事例『OO × ICT』</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>① 『スイッチ教材 × ICT』</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>スイッチ教材のねらい</b></p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・刺激に対する反応、協調性動作の向上</li> <li>・目的(主体性)を持った動作の向上</li> <li>・因果関係の理解と向上</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>スイッチ教材とICT</b></p> <p style="text-align: center;">【GIGAスクール構想の理念】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; text-align: center;">       これまでの 教育実践の蓄積     </div> <div style="font-size: 2em;">×</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; text-align: center;">       ICT = 主体的・対話的で深い学びの視点からの 学習活動の一層の充実 授業改善     </div> </div> <p style="text-align: center;">↓ スイッチ教材についてと同様に…</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; text-align: center;">       スwitch教材     </div> <div style="font-size: 2em;">×</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; text-align: center;">       ICT = 主体的・対話的で深い学びの視点からの 学習活動の一層の充実 授業改善     </div> </div>	<p style="text-align: center;"><b>『MaBee (マビー)』</b></p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・おもちゃなど、単3の乾電池で動く製品をタブレットからコントロールできるようにする乾電池型IoT製品。</li> <li>・専用アプリでは、タップの他、音声入力等、様々な操作方法に対応し、電池の出力をコントロールし、動き、スピード等を変えることができる。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>使用教材と機器</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラレール</li> <li>・iPad</li> <li>・MaBee (マビー)</li> <li>・iPadアプリ『MaBeeコントロール』</li> <li>・ジェリービーンズスイッチ、他</li> <li>・スイッチ・インターフェイス『+Padタッチャー』</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>児童Aのケース (→動画2本)</b></p> <p>【Before】 身体の高緊張の状態で、スイッチに向けて手を運ぶことが困難で、本児にとって大きな負担。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">入力しやすいスイッチの試行錯誤 (フィッティング・個別最適化)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>【After】 スイッチの入力面積の拡大と、繊細なタッチでの入力が可能になり、スイッチに手を運ぶことが容易になった。</p>	<p style="text-align: center;"><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スイッチ入力がしやすくなり、おもちゃを自分で動かすという因果関係を理解できるようになった。</li> <li>・おもちゃが途中で止まった時に、様子から状況を判断し、スイッチに再び入力しようとするなど、意欲的に手を動かすようになった。</li> <li>・他のスイッチを使った際も、テーブルを手で探索するようになり、手元の空間認知が育ってきている様子がみられた。</li> </ul> <p style="text-align: right;">↓</p> <p style="text-align: right;">自らの動きで結果が出ることで、「やろう」と思う気持ちが生まれました。</p>	<p style="text-align: center;"><b>② 『スパイダーシステム × ICT』</b></p>

## スパイダーシステムのねらい



- 肢体に障がいのある子どもたちの学習に活用されている支援装置。
- 身体とフレームを複数のゴムバンドでつなぎ、重力による負荷を減らし、姿勢補助や運動を支援する。
- 支援者の介助を受けずに「自分で動く」感覚と体験が得られる。

## 使用教材と機器

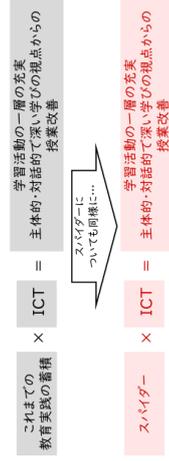
- 大型モニター
- iPad
- 使用ゲーム



『リアクション』



## GIGAスクール構想の理念



## 児童Bのケース (→動画2本)

### 【Before】

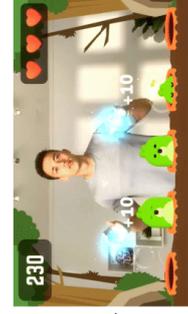
左片まひがあり、左側のターゲットに手が届きづらかったり、左側に体幹が傾くと自分で戻すことが困難。

↓  
スパイダーシステムを用いた姿勢の安定化  
(フィッティング・個別最適化)

### 【After】

軽倒しない安心感を得て、体幹から離れたターゲットに手が届くようになり、左側に体幹が倒れても自分で戻せるようになった。

## ARフィットネスアプリ“Active Arcade”



- スマホ・タブレットのフロントカメラで自分の姿を映し、身体を動かして遊ぶARゲームアプリ
- 無料!!

## 成果

- 普段以上にダイナミックな動き(潜在的な力)を引き出すことができた。
- 動画で活動を記録でき、子どもも教員も振り返ることができた。  
→ GIGAスクールiPadなら、自分のペースで保存・蓄積できる。
- 児童生徒が「自分でできてきている」実感を得て、次への活動に向かう意欲を、より強持つことができた。
- スパイダーシステムでの教育実践をアップグレード

ただし…  
• ARディスプレイに映る自身を客観的に捉えることができる認知力が育っていないと難しい。

## まとめ

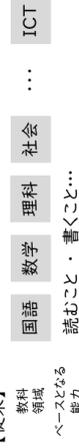
子ども自身の「できた!」という達成感を積み重ねていけるような取り組みにしたい。



ICTを加えることで、今以上の教育的アプローチをめざす。

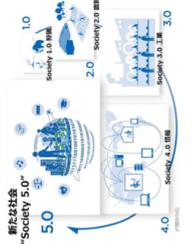
## 意識のシフト

### 【従来】



### 【今後】



<p><b>一週性の取り組みで終わらせないために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 属人的な取り組みに留まっていると、衰退していく</li> <li>• 子どもを取り巻く、多くの人、様々な立場の人を巻き込む取り組みが必要</li> <li>• ICTを使うことへの共通理解</li> <li>• 毎日少しずつ取り組んで習慣化</li> </ul>  <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;"><b>子どもが変われば、周りも変わる</b></p>	<p><b>ICT活用の推進に向けて</b></p> <p>支援機器活用・支援教育実践研修会 ～ICT機器展示会～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 公開研修会として年1回開催、ICT・支援機器教材を展示</li> <li>• 児童生徒と教員が一緒に参加する「体験型研修」</li> <li>• 視線入力装置、スイッチ教材、デジタル図書、タブレット端末のアクセシビリティ機能のデモ、他</li> </ul> 	<p><b>ICT活用の推進に向けて</b></p> <p>校内ICT研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 『GIGAスクール時代のサイバーバル』と題して、タブレット端末の操作、視線入力装置、プレゼンテーションソフトを活用した教材作成等、実用的な内容で実施</li> </ul> 
<p><b>実際の授業での活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 大型テレビ、電子黒板の活用</li> <li>• 授業の授業における個別・授業映像の提示</li> <li>• プレゼンテーションソフトを用いた調べ学習のまとめ、発表</li> <li>• 行事、様式の校内ビデオ配信</li> <li>• タブレット端末の活用 <ul style="list-style-type: none"> <li>• インターネット検索による調べ学習</li> <li>• カメラ機能による植物栽培の観察記録</li> <li>• 音声入力による単語・漢字学習</li> <li>• 知育アプリによる個別課題作成</li> </ul> </li> <li>• オンライン会議システムの活用</li> <li>• 授業の他、地域の学校との交流会など、行事のリアルタイム中継</li> <li>• クラウドサービスによる教材の共有 <ul style="list-style-type: none"> <li>• GoogleWorkSpace、Googleドライブ、Classroom</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>「誰ひとり取り残さない」学びの実現へ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• これまでの教育実践を基礎としながら、「ICTの利点を取り入れて、子どもたち一人一人ひとりにとって最適な支援を行う。」</li> <li>• ICTを使うこと自体を目的にするのではなく、指導のねらいを達成するための手段として使う。</li> <li>• システムに子どもをも合わせるのはなく、子どもに合ったシステムを提供する。</li> </ul>	<p><b>新たな社会での自立へ向けて</b></p>  <p>『Society 5.0』とは、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会。</p> <p>内閣府の第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された造語。</p> <p><small>（内閣府HPより引用）</small></p>
<p><b>新たな社会での自立へ向けて</b></p> <p>AI (Artificial Intelligence: 人工知能) と IoT (Internet of Things: インターネットと連結した機器) に囲まれ、これらを活用する生活が主流となる時代</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「自分でできる、自分で決める」を支援するICT活用</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;"><b>障がいのある児童生徒の生活の質を高める 自立に向けた力を伸ばすための学び</b></p>	<p><b>機器のデモンストレーションと体験</b></p>	<p>① 『MaBee (マビー)』 × プラレール</p> 

## ② ARフィットネスアプリ“Active Arcade”



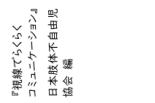
Active Arcade(©マイナビ)

## 終わりに

### 【参考】書籍紹介



『新しい時代の特別支援教育におけるICTの活用』  
編著：福島 孝、大井 雅博  
著：福島 孝、大井 雅博  
シアース教育新社



『視線でくまぐまコミュニケーション』  
日本肢体不自由児協会 編

## ③ 視線入力装置 × EyeMoT

- 島根大学工学部助教の伊藤史人先生により開発した視線入力練習ソフト
- 研究室で学生と共同で作成し、自身のブログ『ボランの広場』にて無料配信
- 使用者の認知特性やニーズに応じて様々なゲームがあり、楽しみながら視線入力の練習ができる



Eye MoTシリーズ  
(視線入力練習ソフト)

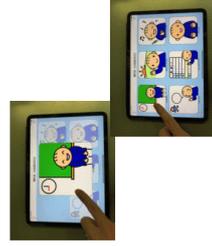
## 終わりに

### 【参考】WEBサイト

- ① KINTAのブログANEX  
<https://www.magicaltoybox.org/kinta/home/>
- ② Sam's e-AT Lab  
<https://sam-eatlab.blog.jp>
- ③ ボランの広場 | 福祉情報工学と市民活動  
<https://www.poran.net/ito/>
- ④ ドロップレット・プロジェクト  
<https://droptalk.net>



## ④ VOCAアプリ『DropTap』



- iPad単体で多機能VOCA (Voice Output Communication Aid :携帯用会話補助装置) として使えるコミュニケーションアプリ。
- アプリ内のDropsジャンルの他、写真、自作イラストからオリジナルを作成できる。音源は録音でももちろん入力した文字を人工発音で発生させることもできる。英語にも対応。

## 終わりに

- 中津支援学校について、もっと詳しく知りたい方は、ホームページ、ブログ『中津ニュース』をご覧ください。



スマホが利用可能です。



(3) 支援学校における地域支援

<p>大和大学 支援学校における地域支援</p> <p>大阪府立中津支援学校 リーディングスタッフ 久保 太作 中吹 英人</p>	<p>はじめに 学校紹介 大阪府立中津支援学校</p> <p>【開校】 昭和62年（1987）4月1日 【住所】 大阪府北区中津2丁目2-2</p> <p>児童生徒数 64名 小学部 31名 中学部 18名 高等部 15名</p> 	<p>廊下</p> 
<p>スローステップ</p> 	<p>中庭</p> 	<p>中津支援学校ホームページ</p> 
<p>本日の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>01 リーディングスタッフとは</li> <li>02 求められる専門性</li> <li>03 事例検討</li> </ul>	<p>01 リーディングスタッフとは</p>	<p>リーディングスタッフとは</p> <p>リーディングスタッフ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「大阪府内の支援教育推進の中核を担う者」</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 各府立支援学校に2名ずつ任命</li> <li>▶ 地域支援整備事業に基づいて活動</li> <li>▶ 活動範囲は、所属地域ブロック内</li> </ul> </div>

リーディングスタッフとは

### 地域支援整備事業

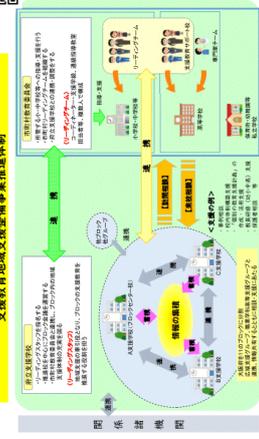
障がいのある幼児・児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導及び必要な支援を行う支援教育を進めるため、府立支援学校内の支援体制の整備はもとより、府内において、府立支援学校と府内市町村教育委員会との関係部局や医療・保健・福祉・労働等の関係機関等が連携し、地域支援リーディングスタッフ等を活用して、**府立支援学校がセンター的機能を発揮し、保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校及び高等学校の教職員や幼児・児童・生徒の支援教育に関するニーズに応じた適切な指導・助言、支援を行うために、必要な事項を定める。**（参照より一部抜粋）

リーディングスタッフとは

### 地域支援整備事業

府立支援学校のセンター的機能とは、学校教育法76条および学習指導要領等に基づき、府立支援学校が地域における支援教育に係る中核的な機能としての役割を果たすとともに、**自立活動の知見や支援教育における専門性を発揮し、小中学校等の支援教育における取組を支援することである。**（参照より一部抜粋）

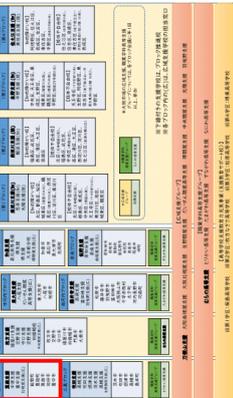
リーディングスタッフとは



リーディングスタッフとは



### 大阪府センター的機能における地域プロダクト等の連携体制



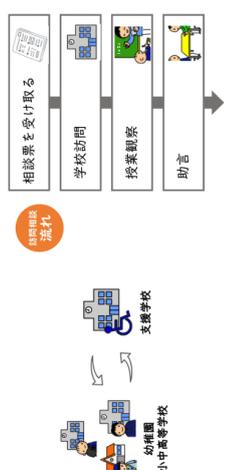
リーディングスタッフとは

### リーディングスタッフ (LS) の仕事

- 1 訪問相談や来校相談及びオンライン相談等
  - 2 合同相談会の企画や協力
  - 3 障がい理解推進、校内委員会等の体制づくりへの助言
  - 4 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成・活用に向けた助言
  - 5 教育、医療、保健、福祉、労働等の関連機関との連携、協力体制の構築
  - 6 市町村関係部局等、小・中学校等が主催する研修会や協議会等への参加
  - 7 小・中学校等の教職員に対する研修講師の派遣
  - 8 自立活動等における指導実践の公開、教材教具に関する情報提供及び貸出し等
  - 9 専門性の向上に向けた研究協議会・研修への参加
  - 10 その他、大阪府教育庁が必要と認める支援
- 地域支援整備事業より

リーディングスタッフとは

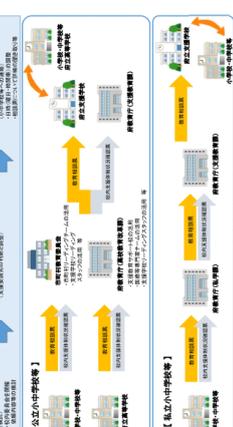
### 訪問相談や来校相談及びオンライン相談等



リーディングスタッフとは



### 府立支援学校への地域支援要員の流れ



リーディングスタッフとは

### 訪問相談件数・相談内容

令和4年度 豊能ブロック

訪問回数	相談件数	相談内容
132回	263件	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 学習支援</li> <li>▶ 自立活動</li> <li>▶ 多動、衝動</li> <li>▶ 書き癖</li> <li>▶ 感情コントロール</li> <li>▶ 学校しぶり</li> <li>▶ 家庭支援</li> <li>▶ 発達形成 など</li> </ul>

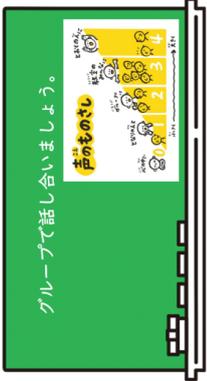
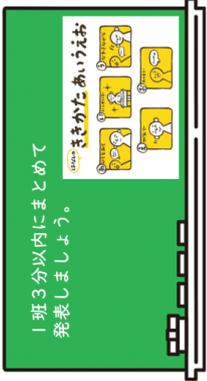
リーディングスタッフとは

### 訪問相談や来校相談及びオンライン相談等

- ▶ 市町教育委員会主催の研修会の講師派遣
  - ▶ 幼・保・子ども・小・中・高等学校の校内研修の講師派遣
- 【ニーズが多いテーマ】  
合理的配慮 | 応用行動分析 | ABC分析 | 発達障がい  
自立活動 | 個別の教育支援計画・指導計画 など



### 03 事例検討

<p>事例検討</p> <p>事例の整理</p> <p><b>本見の困り感</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行事や練習に参加できない (参加したい気持ちはあるが)</li> <li>・友だちとの関係がうまくいかない (友だちと関わるのが好きだが)</li> </ul> <p><b>本見の強み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「声の大きさ」を活かして、上記の2点についての支援の方法を考えましょう！</li> </ul> <p>【支援の視点】個に応じた支援 (合理的配慮)、          全体への支援 (基礎的環境整備)、保護者への対応</p> <p>事例検討</p> <p>事例についてのまとめ</p> <p><b>グループワーク</b></p> <p>グループで話し合います。</p> 	<p>事例検討</p> <p>事例の整理</p> <p><b>本見の強みを整理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学当初から落ちつきがない状態でしたが、次第に落ち着いて学校生活を送ることができるようになりました。</li> <li>・一斉学習したことは積極的に手を挙げて意見を発表する様子が見られ、アスタでもよい点数を取ることができています。</li> </ul> <p><b>本見の強み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しを持ってたり、見本があると取り組むことができる。(良い点) 友だちと関わるのが好き。</li> </ul> <p>事例検討</p> <p>事例検討の流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 各クラスで役割を決める ファシリテーター、記録者、発表者</li> <li>2 【個人ワーク】 困り感に対する支援方法を作業に書き出す</li> <li>3 【グループワーク】 作業に書き出した、支援方法を共有・整理</li> <li>4 全体共有 1班3分以内で発表する</li> </ol> <p>事例検討</p> <p><b>全体共有</b></p> 	<p>事例検討</p> <p>事例の整理</p> <p><b>本見の困り感を整理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会や学習発表会など行事の練習が始まると参加することを拒否して、教室から出たがらない</li> <li>・「その洋服似合わないね」、「着のせいで、このチームは負けたんだ」などと発言してしまう</li> </ul> <p><b>本見の困り感</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行事や練習に参加できない (参加したい気持ちはあるが)</li> <li>・友だちとの関係がうまくいかない (友だちと関わるのが好きだが)</li> </ul> <p>事例検討</p> <p><b>個人ワーク</b></p>  <p>事例検討</p> <p>まとめ</p> <p><b>本見の理解</b></p> <p>「お見通しがないことに取り組むことが難しい」          見たままを口にしてしまう</p> <p><b>想像する力</b> が弱い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 予定の変更や予測のつかない状況にベニツグになる</li> <li>▶ 人の気持ちを想像することが難しい</li> <li>▶ 暗黙ルールがわからない、言葉の真の意味がわからない</li> </ul> <p>この力が取れて...</p>
---	---	--

<p>事例検討</p> <p>まとめ</p> <p><b>支援をしていく際のポイント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 診断名ではなく、子どもの教育的ニーズに支援</li> <li>▶ スモールステップで支援方法を考える</li> <li>▶ 支援の優先順位を決める</li> </ul> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>障がいは <b>環境</b> によって 障がいはなくなること も 機能障がいを治療することは困難でも、 適応状態を改善することはできる</p>  </div>	<p>事例検討</p> <p>まとめ</p> <p><b>具体的な支援方法②</b></p> <p><b>本児の困り感</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちとの関係がうまくいかない (友だちと関わることが好きだが)</li> </ul> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>全体への支援</b> (系統的支援型)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体でSST (ソーシャリスキルトレーニング) をする。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>個に絞った支援</b> (含理的配慮)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Aさんの発音により、相手が不機嫌になった時「OOと書かれるのはイヤだ」と相手の気持ちを教える。 →相手の気持ちを理解させようという指環はX 相手の気持ちかわからないうことを責めない!</li> <li>・SST (ソーシャリスキルトレーニング) をする。 →4コマ漫画等を用いて準備と状況から相手の気持ちを推測し、表情カードを使い、表情を当てはめる練習をする。</li> </ul> </div> <p style="font-size: small; text-align: right;">図解資料からSSTへのポイント事項(公開)頁19</p>	<p>事例検討</p> <p>まとめ</p> <p><b>具体的な支援方法①</b></p> <p><b>本児の困り感</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行事や練習に参加できない (参加したい気持ちはあるが)</li> </ul> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>全体への支援</b> (系統的支援型)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・練習で説明書変更がある場合は、臨時の時間割表を作り、全員に配る。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>個に絞った支援</b> (含理的配慮)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行事へのイメージを持つように、前半程の字責やビデオを見せ、説明しておく。</li> <li>・参加の方法を変える提案する。 【例】①体操服に着替えるのみ → ②運動場で練習 → ③1分だけ参加</li> <li>・トークウェブノミー法 少しでも参加できたらシールを貼る。</li> </ul> </div> <p style="font-size: small; text-align: right;">別紙にあるまでの支援(ハンドブック)執筆日記</p>
--	--	--

<p>令和5年度 府立学校首席研修 (第2回) Cコース</p> <h2>カリキュラム・マネジメント 実践報告</h2> <p>大阪府立中津支援学校 首席 宇賀 功二</p> <p>1</p>	<p><b>本日お話しする内容</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中津支援学校について</li> <li>2. カリキュラム・マネジメントについて → 「カリキュラム・マネジメント」とは → 「カリキュラム・マネジメント」の3つの側面</li> <li>3. 学校経営計画 → 「1人1研究」</li> <li>4. 本校での取り組み → 「校内ICT研修会 (ミニ研修)」 → 「支援機器活用・支援教育実践研修会～ICT関連～」 → 「大学への出前授業」</li> <li>5. まとめ</li> </ol> <p>2</p>	<p><b>1. 中津支援学校について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 昭和62年開校。肢体に障がいのある児童生徒を対象とした支援学校。</li> <li>■ 隣接する医療型障がい児入所施設「大阪整肢学院」に入所している児童生徒への教育を実施。</li> <li>■ 在籍者数 (令和5年5月1日現在) 63名 (小学部30名、中学部18名、高等部15名)</li> </ul> <p>3</p>
<p>2-1. 「カリキュラム・マネジメント」とは</p> <p>「社会に開かれた教育課程」の理念の実現に向けて、学校教育に関わる様々な取り組みを、教育課程を中心に据えながら、組織的かつ計画的に実施し、教育活動の質の向上につなげていくこと</p> <p>文部科学省WEBページより</p> <p><b>授業改善に向けた取組みの充実</b></p> <p>4</p>	<p>2-2. 「カリキュラム・マネジメント」の3つの側面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 教師が連携し、複数の教科等の連携を図りながら授業をつくる (教科横断的な視点での取組み)</li> <li>■ 学校教育の効果を常に検証して改善する (PDCAサイクルによる評価と改善)</li> <li>■ 地域と連携し、よりよい学校教育をめざす (地域や外部人材との連携)</li> </ul> <p>文部科学省WEBページより</p> <p>5</p>	<p>3. 令和4年度 学校経営計画より①</p> <p><b>「めざす学校像」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 肢体不自由等の障がいがあり家族と離れて大阪整肢学院で生活している原簿生徒たちの将来を思ふえ、一人ひとりのニーズを的確に把握し経験を広げ心身の成長を導く。「人とつながる喜びを知り、自分や他者を大切にしながら社会参加する」人間の育成をめざした教育を遂行する。</li> <li>● 本校の特色を生かし大阪整肢学院と連携するとともに、地域における教育・福祉への貢献を推進する。</li> </ul> <p><b>「中期的目標」</b></p> <p>(2) 特色ある教育活動を推進し、豊かな表現力を養い、確かな成長や学力を育み、その取組みを校外へ発信する学校</p> <p>(4) 教職員の人材育成を推進し、特別支援教育の専門性・より高い支援力を追及する学校</p> <p>6</p>
<p>3. 令和4年度 学校経営計画より②</p> <p><b>「中期的目標」より</b></p> <p>2- (2) 校内での1人1台端末の導入に伴い、これまでの授業改善や教育実践×ICT機器の活用にもむけた教材・支援機器の活用の実践を進め、児童生徒の「したい」⇒「できた」⇒「つたわった」という機会を増やす。</p> <p>4- (1) 教職員が責任ある取組みを行うことで、役割を全うし、達成感を体得することで、学校運営や地域活動等への参画意識を高める。</p> <p>4- (2) 地域への貢献をめざし、支援教育に関する専門性を向上させ、追及する姿勢をもちながら、支援教育の充実を推進する。</p> <p>7</p>	<p>4-1. 本校での取組み「1人1研究」①</p> <p>学校経営計画 教育実践×ICT機器の活用 → 活用実践を進め、事例を蓄積</p> <p>実践 「1人1研究」として、ICT機器を活用した教材作成や活用実践を進め、年度末に事例として提出</p> <p>まとめ 「1人1研究」の実践をまとめたものを実践事例集としてWEB発信および冊子化し、学校内外に発信</p> <p>8</p>	<p>4-1. 本校での取組み「1人1研究」②-1</p> <p><b>ICT</b> <b>音楽 (器楽合奏) × ICT</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→ バンドへの憧れ (やってみよう)</li> <li>→ 楽器のアクセシビリティ化 (できた)</li> <li>→ 個別最適な学びから協働的な学びへ (楽しい、もっとやりたい、またやりたい)</li> </ul> <p>9</p>

<p>4-1-1. 本校での取り組み「1人1研究」②-2</p> <p>実際に生徒が使用した、iPadアプリ「GarageBand」の画面</p>  <p>●黄枠の部分をタップやスワイプすることで、和音（F,C7,Bb）の三つのコードを鳴らすことができる。</p> <p>●誤操作防止のため、赤枠以外の箇所はアクセシビリティを設定し、反応しないようにしておく（赤枠の部分のみ操作可）</p> <p>10</p>	<p>4-1-1. 本校での取り組み「1人1研究」②-3</p>  <p>11</p>	<p>4-1-1. 本校での取り組み「1人1研究」③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ スイッチ教材 × ICT</li> <li>→ 適切な入力機器の設定（<b>フィッティング</b>）</li> <li>→ 因果関係の理解から主体性をもった動きへ（<b>できる、もっとやりたい</b>）</li> <li>→ 個別最適化の学びの提供・充実</li> </ul>  <p>12</p>
<p>参考資料：アクセシビリティ・スイッチの例①</p>  <p>ジェスチャーベーススイッチ (左) スイッチ マイクロライト スイッチ ストリング スイッチ</p> <p>13</p>	<p>参考資料：アクセシビリティ・スイッチの例②</p>  <p>フレキシブル スイッチ ポイントタッチ スイッチ PPSスイッチ スイッチ &amp; タイマー</p> <p>14</p>	<p>参考資料：スイッチインターフェイスの例</p>  <p>i+Padタッチャー Hook+ (フックプラス) 急速Bluetooth マウス</p> <p>15</p>
<p>参考資料：視線入力装置①</p> <p>PC画面への視線を感じし、マウスのようにカーソルを操作することが可能</p>  <p>Tobii Dynavox PCeye5 TMS MINI EYETRACKER</p> <p>16</p>	<p>参考資料：視線入力装置②</p>  <p>Eye MoTシリーズ (視線入力練習ソフト) miyasaku EyeConマウス (視線マウスソフト)</p> <p>17</p>	<p>4-2-1. 本校での取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>一過性の取り組みで終わらせないために</b></li> <li>→ 属人的な取り組みに留めない（<b>組織としての取り組み</b>）</li> <li>→ 子どもを取り巻く多くの人、様々な立場の人を巻き込む</li> <li>→ 共通理解</li> </ul> <p style="text-align: center;">▶</p> <p><b>子どもが変われば周りも変わる</b></p> <p>18</p>

#### 4-3. 本校での取り組み

##### ■ 一人一研究の冊子化

19

#### 4-6. 本校での取り組み

##### 地域や外部人材との連携

##### ■ 大学への出前授業

→ 本校と関係にある大学へ「肢体不自由教育」や「発達障がい」、「障がい者スポーツ」、「ICT機器活用」等についての講義や実技を実施。



22

#### 4-4. 本校での取り組み

##### ■ 校内ICT研修会（ミニ研修）

→ 令和3年度より『GIGAスクール時代のサイバイバル』と題して、タブレット端末の操作、視線入力装置、ブレゼンテーションソフトウェアを活用した教材作成等、実用的な内容でミニ研修会として実施。



20

#### 4-5. 本校での取り組み

##### 地域や外部人材との連携

##### ■ 支援機器活用・支援教育実践研修会～ICT関連～

→ ICT・支援機器教材を期間中常設展示  
→ 児童生徒と教員が一組になって参加する「体験型研修」  
→ 視線入力装置、スイッチ教材、デジタル図書、タブレット端末のアクセシビリティ機能のデモ、他



21

#### 5. まとめ



23

ありがとうございました

24